生徒指導部通心（信）第 34 号(**令和 4 年度最終号**)（2023．３．22）

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「砂　時　計　の　詩・・・」～

よくこの通心（信）や始業式・終業式に話をさせていただくときに「時間」の話をしてきました。

1日 24 時間というのは、必ず全員に平等に与えられている。
「時間」の使い方には３つある。**消費**は、生活する上でどうしても必要なもののために使うこと。**浪費**は、なくてもいいものなのに使う、イワユル無駄遣い。そして**投資**は、今のためじゃなく未来の自分のためになるように使うこと。**そして・・・「時間」は貯蓄できない。**後で貯めておいて使うことはできない。今の自分のことだけ考えると、消費と浪費に全部使えばいいけど、そうすると将来の自分が受け取るものは何もなくなる。この高校３年間の時間を何にどう使いますか？

なんて話をしてきましたよね。この「時間」について・・・女優として、映画・テレビドラマ・演劇で活躍された、山本富士子さんがこのようおっしゃっています。

私は亡くなった主人と毎年バースデーカードを贈り合っていたんですけれども、主人は必ずそこに素敵な言葉を記してくれていたんですね。その一つが「砂時計」の話だったんです。
「産経新聞」の一面に、「朝の詩」という一般読者の方が投稿する欄があって、主人はそこに投稿された「この秋」という詩に大変感銘を受けて、「砂時計の詩」と題してバースデーカードに引用して贈ってくれたんです。

砂時計の詩

１トンの砂が、時を刻む砂時計があるそうです。
その砂が、音もなく巨大な容器に積もっていく様をみると
時は過ぎるものではなく
心のうちに　からだのうちに積もりゆくものと、
いうことを実感させられるそうです。
心のうちに　からだのうちに積もりゆくもの

私はこの言葉に出合うまでは、時は過ぎ去るものと考えていました。
こうしてお話ししている間も刻々と過ぎていきます。
だからこそ、その一瞬一瞬を大切に、いい刻を自分の心や体の中に積もらせていくことが大事で、それがやがて豊かな心やいい人生を紡いでいってくれる。
そう受け止めて、一日一日を精一杯生きることの大切さを改めて実感させられました。
とても感動したものですから小さな紙に書いて、お財布に入れていつも持ち歩いているんです。

『１日１話読めば心が熱くなる３６５人の仕事の教科書』（致知出版社）より

上の写真は、この詩に登場する島根県大田市にある「仁摩サンドミュージアム」で、観光スポットとしても有名な世界最大の**一年計砂時計**「砂暦（すなごよみ）」です。
この県高での１年生としての１年間、２年生としての２年間で、心に体に、何を積もらせることができましたか？令和５年度、３年生として、２年生としての次の１年間で何を積もらせますか？